

職員が受けました

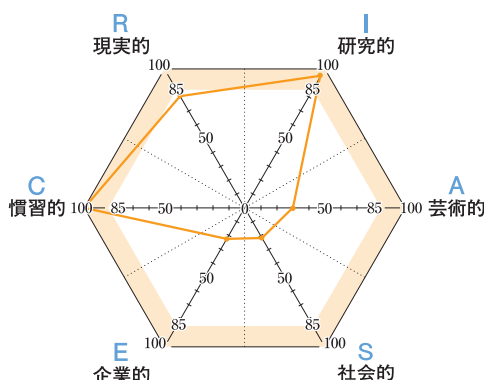


管理課職員（女性）

<担当業務のRIASEC>

- I 研究的職業領域：商品知識
S 社会的職業領域：電話対応
C 慣習的職業領域：受注業務

●A検査の結果プロフィール



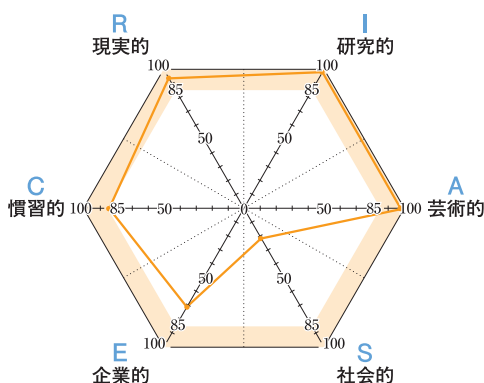
●興味強い職業領域

- 1位：C 慣習的職業領域
2位：I 研究的職業領域
3位：R 現実的職業領域

私は主に商品の受注業務を担当しています。午前中は、前日までの受注分を10時まで処理し、その後、適性検査等の判定受注をお昼までに処理するというルーティン業務を行います。

適性検査の受注では、お客様の希望される検査が使用目的と合っているかをチェックするため、ホームページを調べたり、お問い合わせをして確認するなど

●A検査の結果プロフィール



●興味強い職業領域

- 1位：I 研究的職業領域
1位：A 芸術的職業領域
3位：R 現実的職業領域

原稿整理や校正、執筆者との調整など、編集の仕事には様々な業務があります。中でも編集ソフトを使った組版業務（DTP）はとても楽しいです。

今はソフトの使い方を覚えただけで、これからさらに経験が必要ですが、誌面構成や表紙のデザインなど、手を動かしながら集中して取り組むとあっという間に時間が過ぎてしまいます。「R現



編集課職員（女性）

<担当業務のRIASEC>

- I 研究的職業領域：校正、文献検索
R 現実的職業領域：組版（DTP）
A 芸術的職業領域
S 社会的職業領域：執筆者対応

雇用問題研究会の職員が、実際に職業レディネステストのA検査（興味）を受けてみました。

VRT 職務・課業に掘り下げた活用

..... 教員の例

雇用問題研究会では、職業レディネステスト（VRT）の導入を検討されている中学校や高校の先生方を対象に、学校単位で説明会を行っています。

ある中学校で、副校長先生を含めた先生方10名に説明会を行ったときのことで、「教員」がS領域に分類されていることを知る先生方は、「S領域が一番高い結果にならなかったらどうしよう」とお互いに話されていました。

VRTを実際に先生方に実施したところ、S領域が1位である先生は意外に少なく、6領域それぞれに1位の先生がいるという結果になりました。E領域が1位の先生は、「学校行事の企画がとても好きで、率先して行っている」とのこと。また、副校長先生もE領域が1位で、まさに今担っている学校全体の運営の仕事への関心が高いことがうかがえました。A領域が1位の先生は、デザインやレイアウトにこだわってプリントを作成しているそうです。

このように、VRTにおいて「教員」は、「人に教える」「人を援助する」というメインの仕事に基づいて「S領域」に分類されますが、具体的な職務・課業まで掘り下げると、R・I・A・S・E・Cそれぞれの興味・関心を生かせる仕事があることがわかります（●表）。そのため、先生方の例のように、必ずしもS領域への興味が一番高くな

生徒・学生へのアドバイス

早い時期から、仕事について考えることは大切です。
日常生活の中で会う様々な場面には必ず働いている人がいるので、そのことを意識し、自分の働き方についても考えてほしいです。
そして、いざ就職活動をするときには、何となく就職を目指すのではなく、自分で納得した状態で就活に臨んでほしいと思います。



の業務が加わるので、時間との戦いになります。
慌ただしい時間帯もありますが、決めた時間の中で自分の役割をきちんとこなすことに達成感を覚えます。また、仕事を行う際はルールがあるほうが迷わずに済み、安心して進めることができるので、そこも含めて「C慣習的職業領域」への興味が生かされていると思います。
また、お客様からのお問い合わせに対応する中で、適性検査の専門的な知識が身についたり、出版に関する知識が増えていくことが楽しく、「I研究的職業領域」への興味に当てはまっていると感じます。
適性検査や職業訓練用教科書、一般書籍など、取り扱う商品の幅が広く、それぞれに専門知識が必要となります。そのため、これから身につけていかなければならないことも多くありますが、知識を深めながら自分の役割をしっかりと果たせる働き方に魅力を感じています。

生徒・学生へのアドバイス

学生のときは、就きたい職業をピンポイントで設定し、それが叶わなければやりたいこと自体をあきらめてしまう人もいますが、他の職業にも自分の興味に合った仕事があることを知ってほしいです。
やりたいこと、興味のあることを一つの職業に結びつけずに、選択肢を広くもって進路を考えてほしいと思います。



実的職業領域「A芸術的職業領域」への興味が生かされていると思います。
また、職業訓練用教科書の編集も担当していますが、原稿を整理するときには規格や原典の一つひとつ当たり、正確な情報を得る必要があります。「I研究的職業領域」への興味は原稿整理や校正の業務に生きていると感じます。
今まで縁のないような専門的分野では、聞き慣れない用語ばかりで大変ですが、仕事をとおして知識が蓄積されてくると、自然とその分野にもアンテナが向き、日常生活やニュースなどから情報が入ってきて、さらに仕事への興味が深まる、という良い循環ができています。
VRTを受けて、自分で思っていたよりも興味の幅が広いことがわかりました。編集業務はそれらをバランスよく生かせる仕事だと思います。

●表

職業領域	各領域の仕事	教員の職務・課業（教科指導の例）
R	ものを作る仕事／機械やものを扱う仕事	・授業で使用する道具を取り扱う
I	研究する仕事／考える仕事	・授業の進め方を研究する ・教材を研究、開発する
A	クリエイティブな仕事／発想する仕事	・授業の構想を練る ・プリントなどの補助教材を独自に作成する
S	人に教える仕事／人を援助する仕事	・授業、学習指導、進路相談を行う
E	企画する仕事／組織を運営する仕事	・年間指導計画を立てる ・学級を運営する
C	事務的な仕事／規則的な仕事	・試験を採点し、成績評価を行う ・宿題、提出物などを管理する

も、教員として自身の興味、持ち味を生かしながら働くことができるようです。
VRTの結果を「職業」という大きな単位で検討することに加え、その職業の職務・課業まで調べることで、自分の興味や持ち味を生かした働き方がイメージでき、「働く」ことをより具体的に、身近に感じることができるでしょう。